

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

株式会社 トーエネック

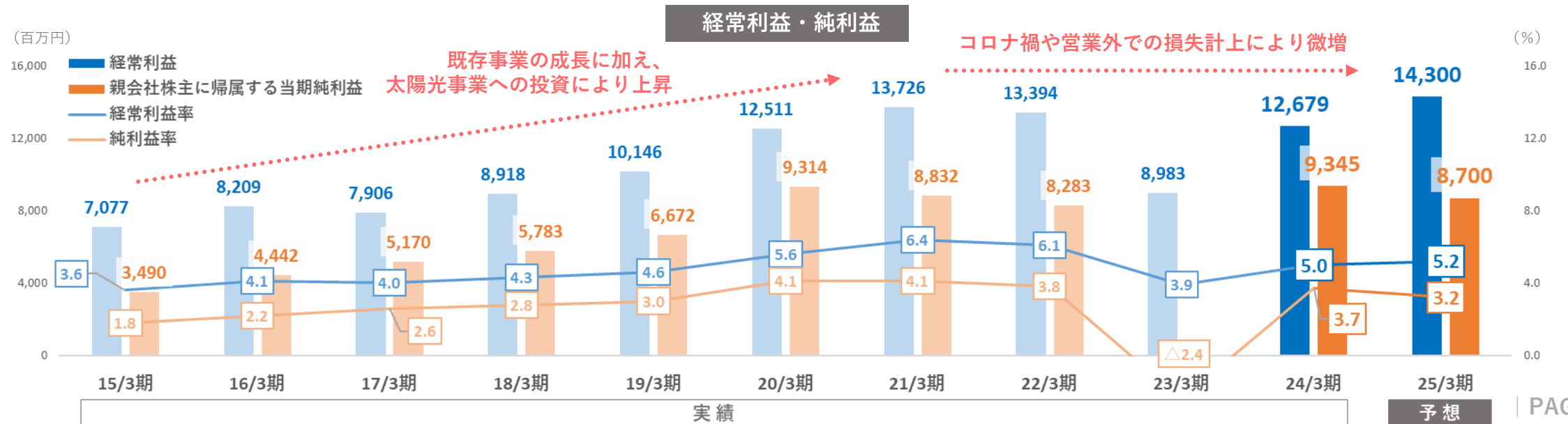
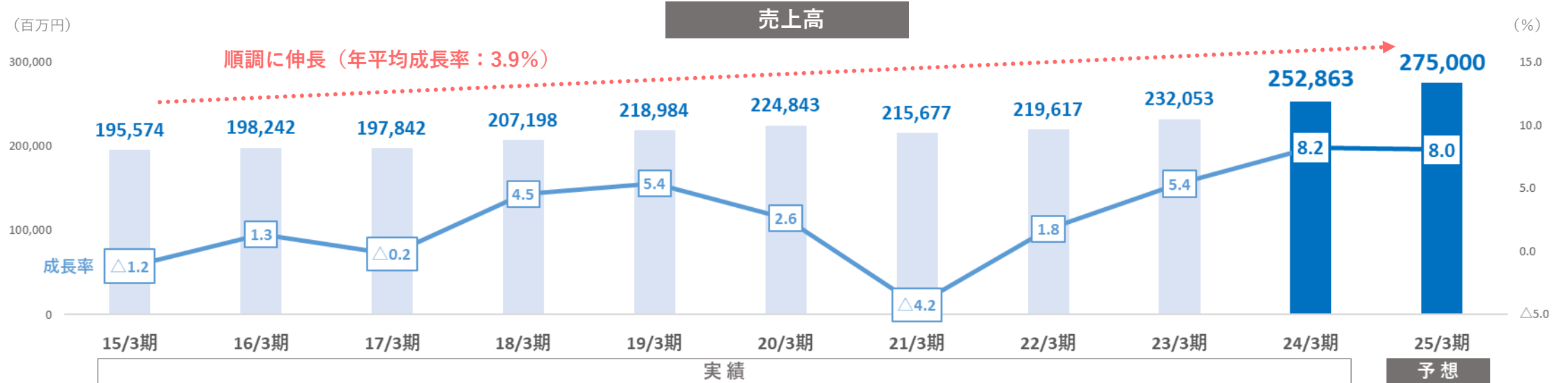
証券コード | 1946

東証プライム・名証プレミア

現状分析

連結業績の推移

- 屋内線における好調な受注環境を背景に売上高は順調に伸長。利益面も上昇傾向にあったが、近年はコロナ禍の影響や営業外および特別損失を計上したことにより微増に留まる

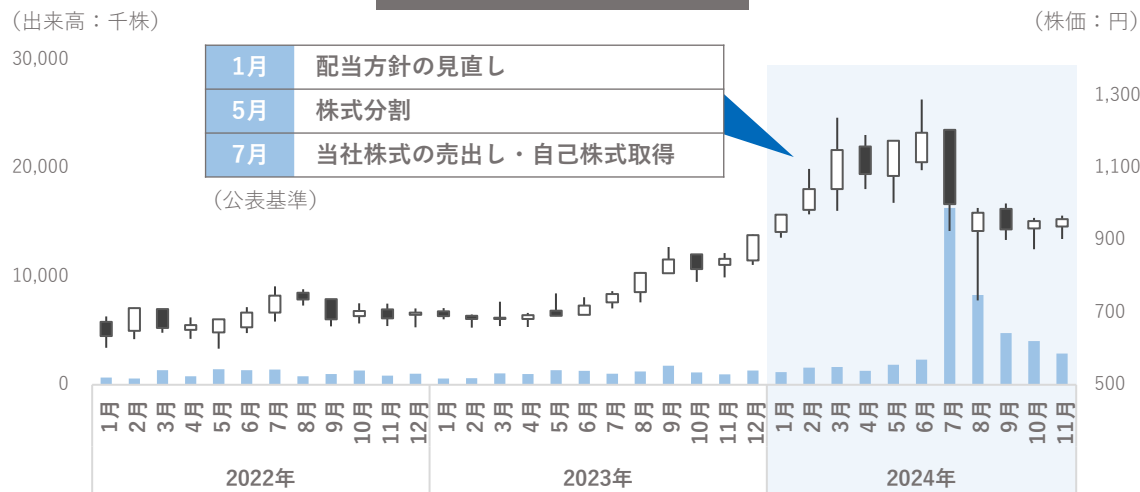


現状分析

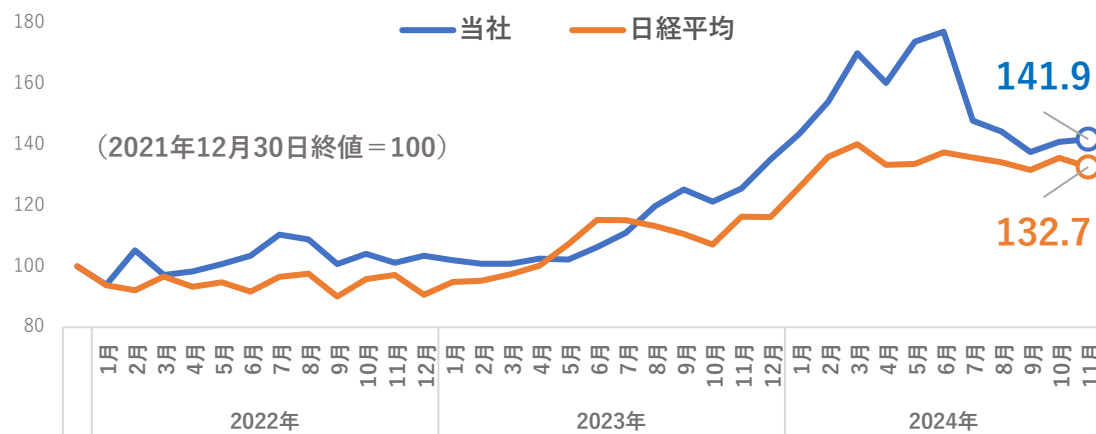
株価の推移

- 好調な業績に加え、配当性向の見直しや株式分割により株価が大幅に上昇したが、中部電力により当社株式売出しなどにより下落し現在は900円後半で推移
流動性については先述の売出しや株式分割により改善
- 過去と比較し株価水準は高まっているものの、PBRは依然として1.0倍を下回る

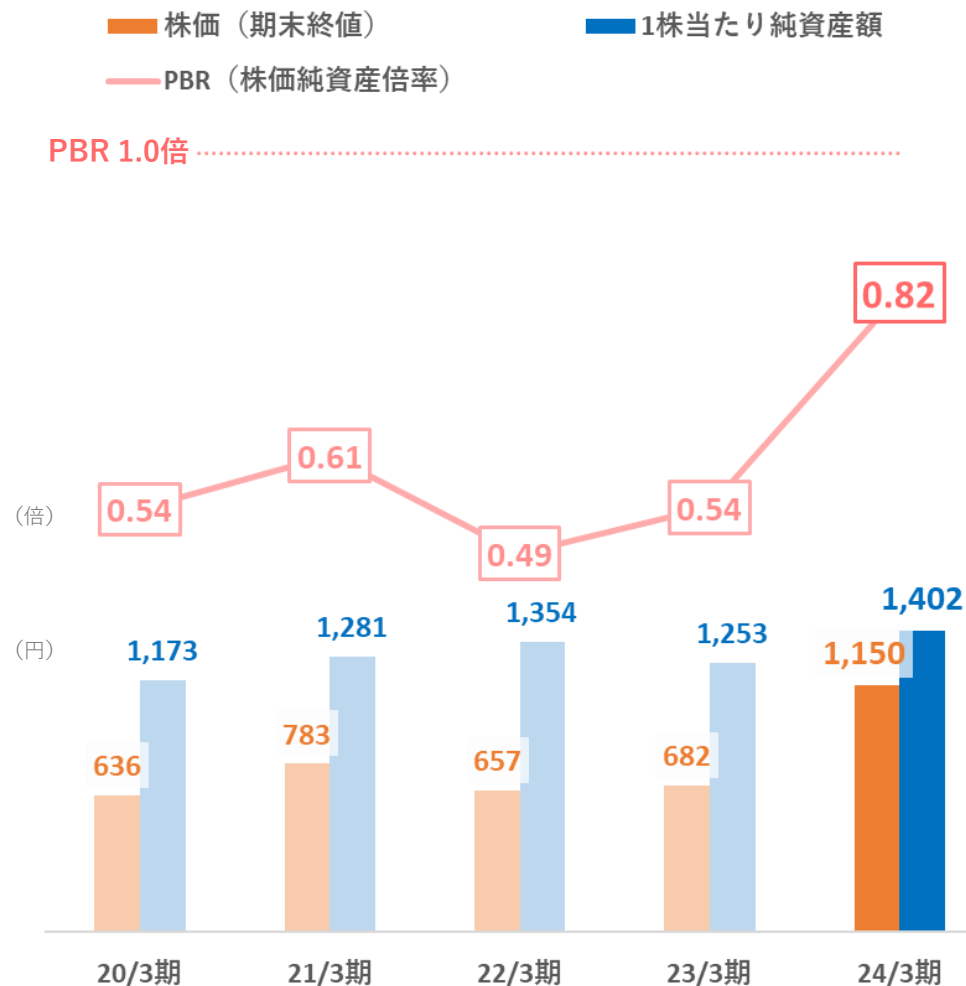
株価・出来高（月足）



株価の増減割合



PBR（株価純資産倍率）

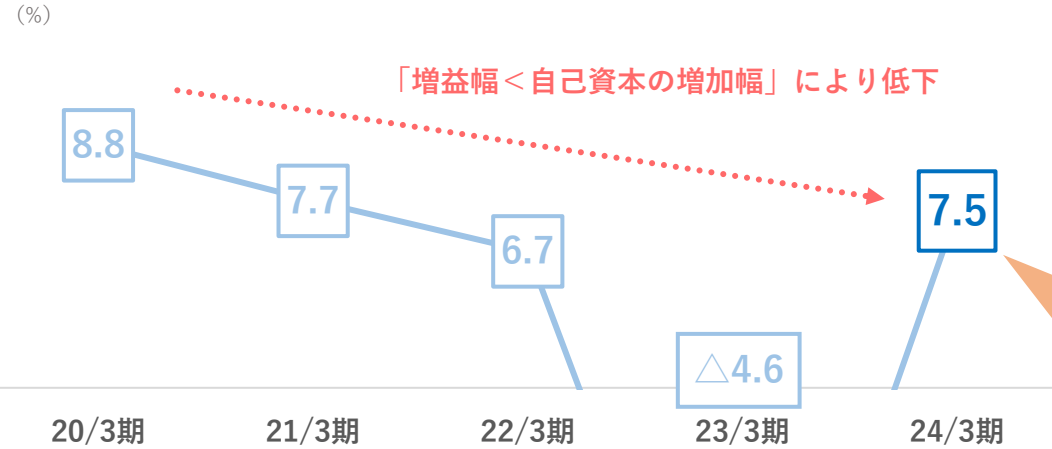


現状分析

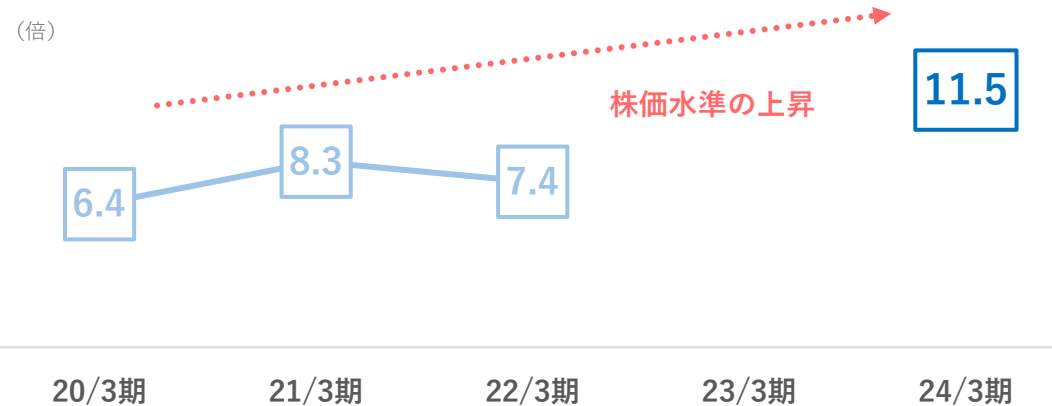
各指標の推移 (ROE・PER)

- 前期のROEは中期経営計画2027の目標（8.0％）に迫る水準となったが、目標達成に向けては収益性の向上が課題と認識
- 一方、PER（株価収益率）については株価水準の上昇により改善

ROE（自己資本利益率）

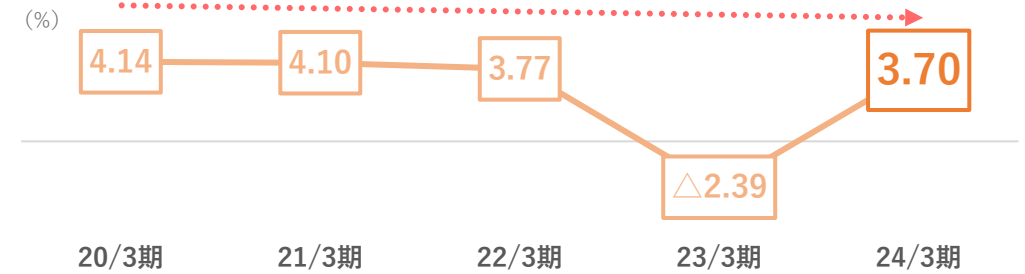


PER（株価収益率）



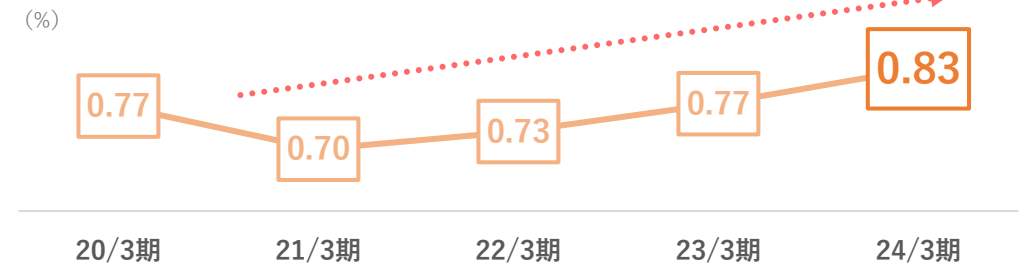
売上高純利益率

受注環境は良好も賃上げや働き方改革対応などにより横ばい



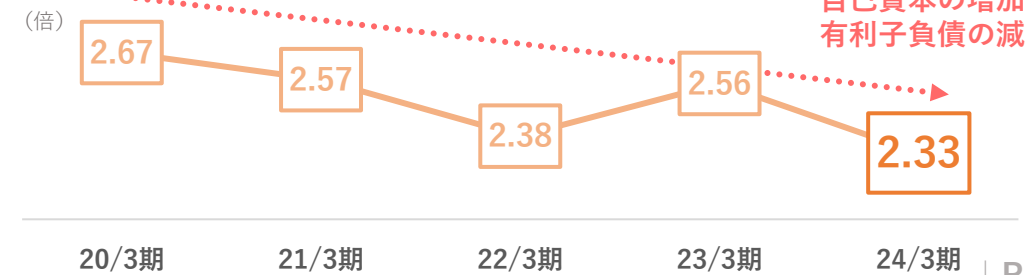
総資産回転率

売上高の上昇



財務レバレッジ

自己資本の増加
有利子負債の減少



現状分析

各指標の推移 (ROE・ROIC)

- 当社では前期末時点の数値から株主資本コストを4.5%程度、WACCを3.1%程度と認識しており、中期経営計画2027においてはROE8.0%を目標に掲げる
- 増収により前期はROE、ROICともに増加しており、良否の閾値である株主資本コストやWACCを上回っている
- エクイティスプレッド（前期実績は3.0%程度）の拡大に向け、資本効率性の向上に資する取り組みに引き続き注力

WACC

(加重平均資本コスト)

3.1%程度

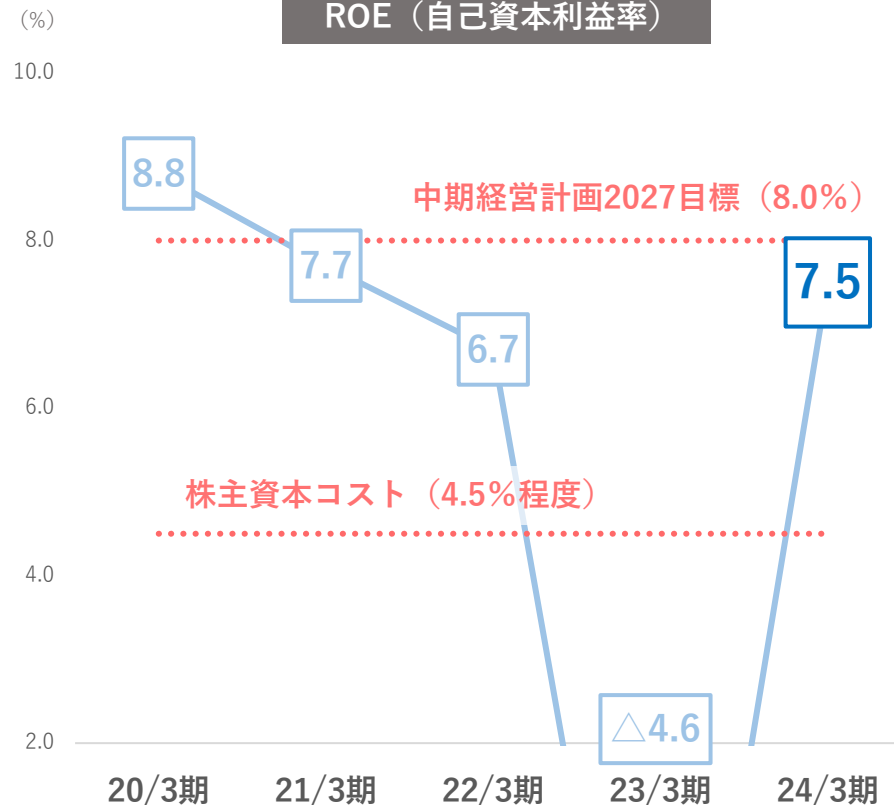
株主資本コスト

4.5%程度

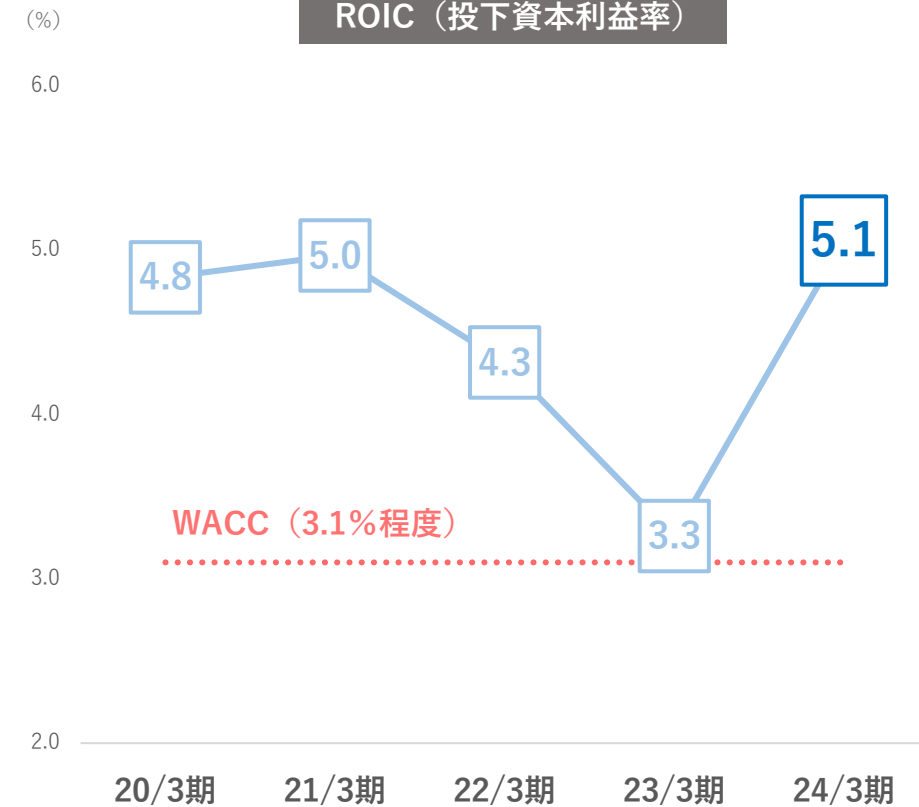
負債コスト

2.1%程度

ROE (自己資本利益率)



ROIC (投下資本利益率)

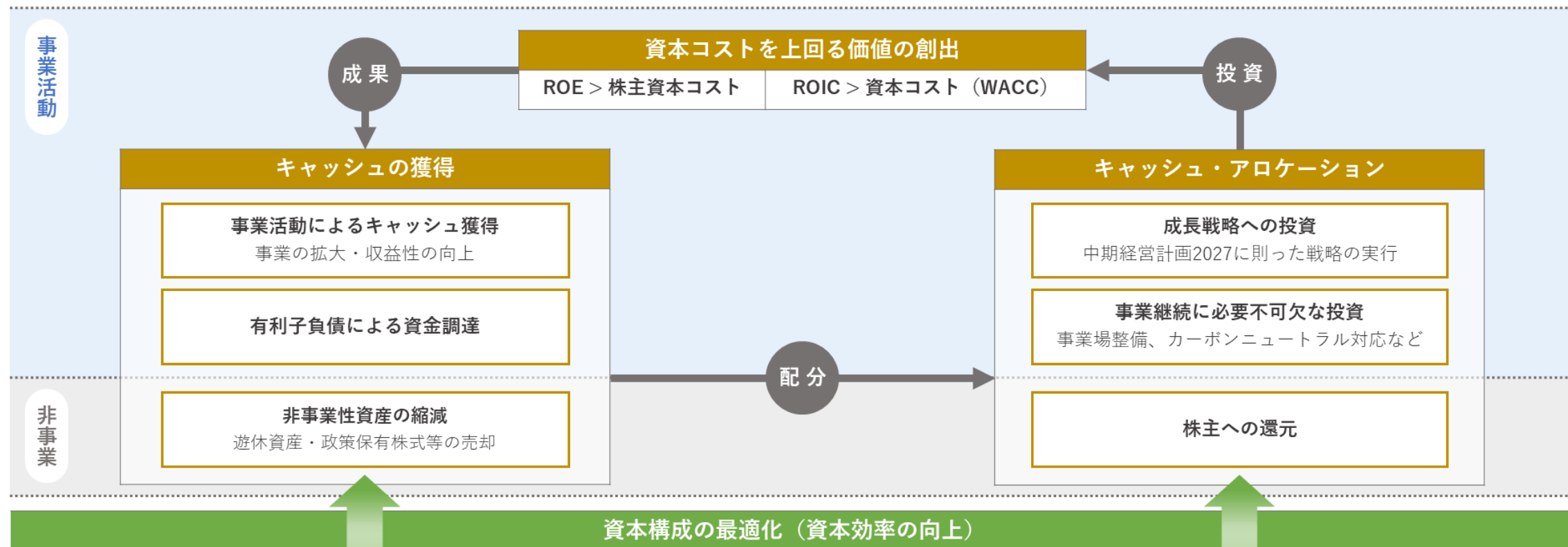


資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針

- 中期経営計画2027に基づいて事業活動の強化に取り組む一方で、資本政策においては財務の健全性を保ちつつ、資本効率の向上を図るため、非事業性資産の縮減や株価を意識した株主還元の強化を図っていく

前提となる考え方

すべてのステークホルダーとの共存共栄を重視し、当社ビジョン（お客さまと、社会と、人と、共に成長し続ける総合設備企業へ。）の実現を目指す。



- 財務健全性確保のため、事業リスクに見合った自己資本の維持を図る。
- 事業への運用率が低い投下資本（非事業性資産）の縮減を進める。
- 収益性や成長性の観点から事業を評価し、選択と集中を図る。
- 必要以上に余剰資金を留保せず、株価を意識した株主還元を実施する。

IR活動の充実

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた主な取り組み

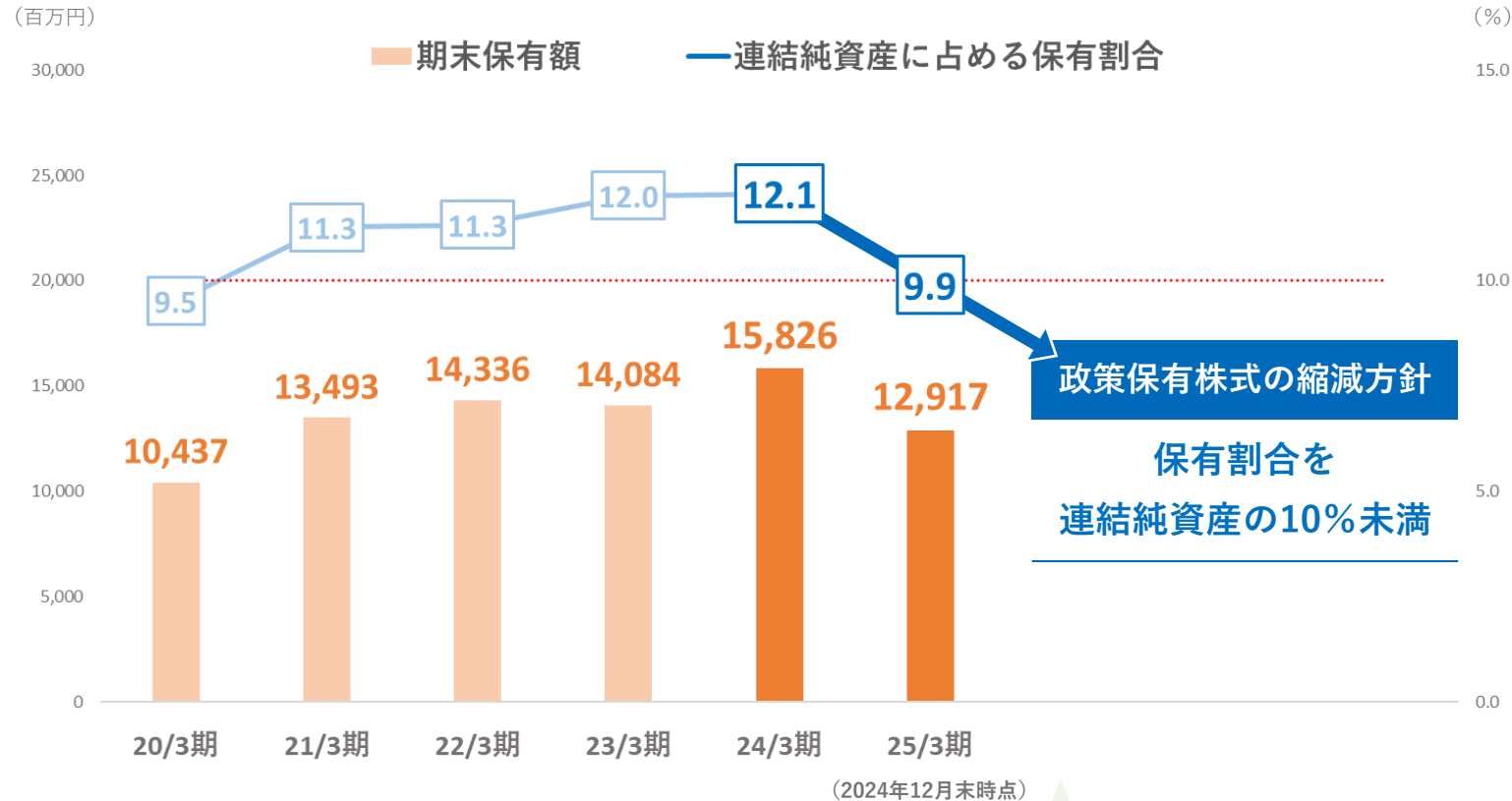
	前回公表時の計画（2024年1月31日）	取り組み内容・成果
成長戦略 への投資	■ 中期経営計画2027に則った成長戦略の実行 ➢ 中期経営計画2027詳細 (https://www.toenec.co.jp/ir/policy/plan/index.html) ■ 事業ポートフォリオマネジメントの推進 ➢ 事業別ROIC等を用いて事業の収益性・成長性の評価し、選択と集中を図る。	■ 生産性の向上や人材投資など持続的な成長に向けた戦略・施策を実行中。好調な受注環境もあり、今期は増収増益を見込む。 ■ 資本効率性を測る管理指標として事業別ROICを算定し、経営層で共有。今後は逆ROICツリーを用いて各事業の資本効率性の向上に取り組んでいく。
資本構成 の最適化	■ 政策保有株式の縮減 ■ 財務健全性の確保 ➢ 財務健全性を確保するため「D/Eレシオ1.5倍以下」を維持するものとする。	■ 政策保有株式の縮減方針を定めた上で、取締役会において各銘柄の保有妥当性を協議。着実に縮減を進めており、今年度も2024年12月末までに約26億円を売却。 [p.8]
株主還元 の強化	■ 配当方針の見直し	■ 2024年1月に配当方針を見直し、前期は連結配当性向40.0%の配当を実施。今期は42.8%を見込む。 [p.9] ■ 2024年7月に実施した中部電力による当社株式の売出しに合わせて自己株式の取得を実施。 [p.10]
IR活動 の充実	■ 株主・投資家との建設的な対話の促進 ➢ 対話により得た気付きを経営に反映することで、会社の持続的な成長と企業価値の向上を目指す。 ■ 適時・適切な情報開示の徹底 ➢ リスク管理の徹底と適時・適切な情報開示により、投資家に与えるリスク要因（不確実性）を可能な限り排除する。 ■ 株式分割の検討 ➢ 自社株式の流動性を高めるため、株式分割の有効性について検討を進める。	■ 積極的な対話（決算説明会の初開催など）と開示情報の充実化（決算説明資料の発行など）により、IR活動の強化を図っており、こうした取り組みを今後も継続。 [p.11] ■ 株主層を拡大し、株式の流動性を高めるため2024年10月に株式分割を実施（普通株式1株につき5株の割合）。 [p.10]

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

政策保有株式の削減

- 毎年、取締役会にて保有銘柄の収益性や利益獲得貢献度などを勘案し、売却銘柄の選定を実施
- 現在は「政策保有株式の保有を連結純資産の10%未満とする」ことを縮減方針に掲げ、政策保有株式の売却を進める

政策保有株式の保有状況



政策保有株式の売却実績

実施年度	銘柄数	売却金額 (百万円)
2020年3月期	1	3
2021年3月期	3	7
2022年3月期	1	3
2023年3月期	5	154
2024年3月期	10	3,029
2025年3月期 (2024年12月末時点)	22	2,618

株主・投資家のご意見（対話から得た気づき）

- ・ 政策保有株式の縮減に関する自社の方針を明示してほしい
- ・ 成長投資や株主還元を活用するため、政策保有株式の縮減に着実に取り組んでほしい

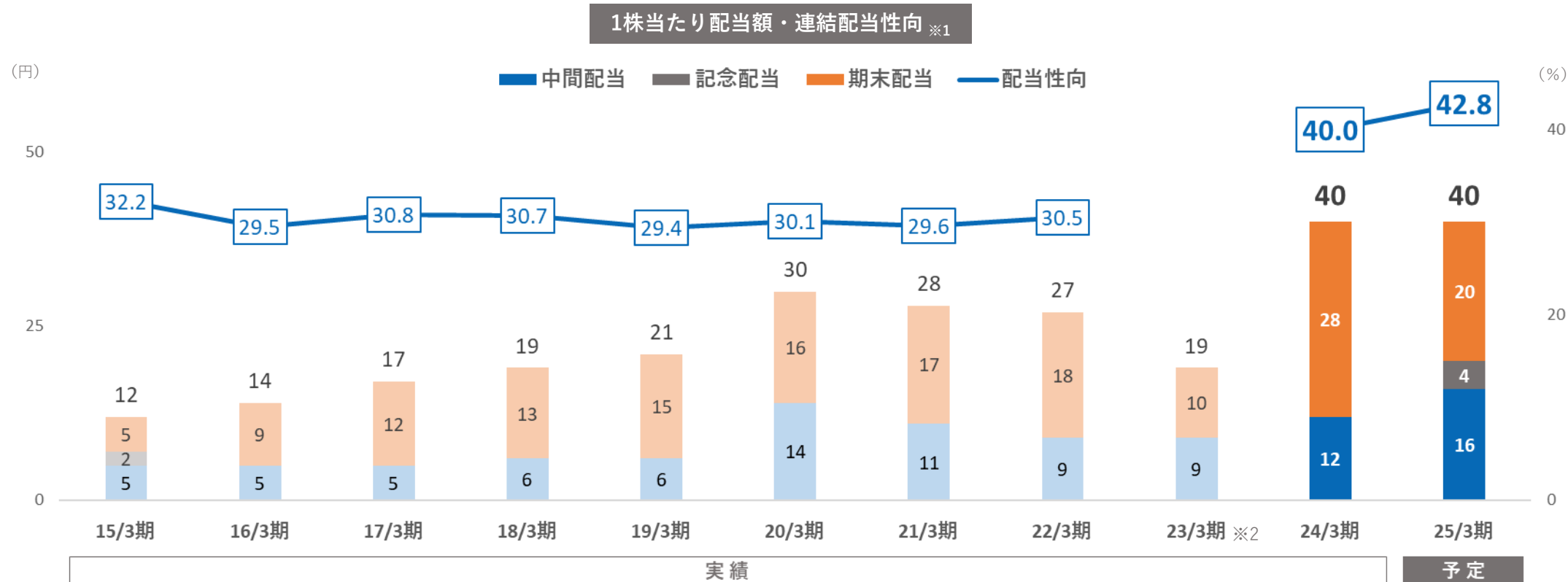
1株当たり配当額・連結配当性向

配当方針

株主・投資家のご意見（対話から得た気づき）

- ・ 同業他社と比較し配当に物足りなさを感じるため、今後は積極的な株主還元を期待する

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現するため、成長戦略への投資のための内部留保と株主還元をバランスよく実施することを経営の重要課題と位置付け、資本収益性の向上や財務健全性の確保、フリー・キャッシュ・フローの状況などを総合的に勘案し、「**連結配当性向30%以上の業績に応じた利益還元**」を行うことを基本としている



※1 当社は2024年10月1日(火)を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合をもって株式分割を実施しており、株主分割を遡及適用した数値を表示

※2 2023年3月期の配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益がマイナス（純損失）のため非表示

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

株主層の拡大

- 流動性の向上を目的に以下の取り組みを実施し、個人投資家を中心に株主総数は約3,000名増加

中部電力株式会社との資本関係見直し（2024年7月1日公表 / 同月実施）

中部電力(株)との親子関係を解消し、経営の自立性と機動性をさらに高めるとともに、個人投資家層を中心に当社株式への投資機会を増大させることで、株主層の拡大や当社株式の流動性を向上させるため、同社が保有する当社株式の売出しを実施

自己株式取得（2024年7月1日公表 / 10月3日取得終了）

株主還元の強化と資本効率の向上を図るとともに、上述の当社株式の売出しに伴う株式需給への影響を緩和するため以下のとおり自己株式の取得を実施

取得した株式の総数 ※	700,000株（普通株式）
取得価額の総額	663,338,890円

※ 2024年10月1日付の株式分割以前に取得した株式を含め、株式分割後の株式数にて記載

株式分割（2024年5月30日公表 / 10月1日実施）

2024年9月30日を基準日として、同日最終の株主名簿に記録された株主の所有する普通株式1株につき5株の割合をもって分割

発行済株式総数
株式分割前

19,329,990株

5倍

発行済株式総数
株式分割後

96,649,950株

株主・投資家のご意見（対話から得た気づき）

- 高い配当利回りは魅力だが、高い投資単位を理由に投資に踏み切れない
- 流動性を高めるためには、株主層の拡大策を検討されたい

[当社株主の状況]

		2024年3月31日現在		2024年9月30日現在
中部電力(株) の保有状況	保有株式数	9,666,015株	△1,384,700株	8,281,315株
	保有比率	51.69%	△7.11%	44.58%
株主総数		4,977名	+2,972名	7,949名
	うち、個人投資家	4,358名	+2,923名	7,281名

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

IR活動の充実

- 積極的な対話と開示情報の充実化を図ることでIR活動の強化を図るとともに、対話から得た気づきを経営に反映

積極的な対話

株主・機関投資家との面談実施

名証IR EXPO 2024への出展（2024年9月）



決算説明会の開催（2024年11月）

- ・ 機関・個人投資家を対象とした決算説明会を2024年11月に初開催
- ・ 今後は定期的に開催予定（中間、期末時）

開示情報の充実化

決算説明資料の発行（2024年3月期年度決算より四半期毎に発行）

トーエネックグループ統合報告書2024の発行（2024年9月）

- ・ 前回より部門代表者コメントや社外取締役インタビュー記事を追加したことに加え、非財務情報を充実化



株主・投資家のご意見（対話から得た気づき）

- ・ 他社と比較して対話の機会や開示情報が不足しているため、投資の検討までに至らない
- ・ 市場における認知度を高めるため、決算説明会の開催を検討されたい

将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想などの将来見通しに関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社トーエネック 経営企画部 経営企画グループ

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目31番23号

お問い合わせフォーム（当社HP）：<https://www.toenec.co.jp/contact/ir/>





トーエネックの使命(パーパス)
いかなる時も、
人や社会に“活力と豊かさ”を生み出す
快適環境を創り、守る



快適以上を、世の中へ。

TOENEK

